

平成29年度第2回江別市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成29年8月31日（木）15時00分～16時30分
場 所	環境クリーンセンター 大会議室
出席委員	押谷会長、内海副会長、浅川委員、五十嵐委員、津嶋委員（途中入室）、中井委員、八戸委員、林倉委員、三輪委員（9名）
欠席委員	星委員、神保委員、和田委員、樋口委員（4名）
事務局	高橋生活環境部長、湯藤生活環境部次長、田中環境室長、阿部廃棄物対策課長、中町施設管理課長、松崎施設管理課主幹、和田庶務係長、佐藤指導係長、中村減量推進係長、五十川減量推進係主査（資源化担当）、江田施設係長、高橋減量推進係主事（12名）
傍聴者	5名
会議次第	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 (1)報告事項 環境クリーンセンターの現状と課題について 4. その他 5. 閉会
配布資料	・資料1 環境クリーンセンターの現状と課題について ・参考資料 道内のごみ焼却施設の検討例

▼会議内容

【開会】

○廃棄物対策課長

皆様、施設の見学お疲れ様でした。

本日は、津嶋委員から所用により遅れるとご連絡をいただいております。現時点では、13名中8名の出席があり、過半数を超えていますことから本会議は成立していることを報告いたします。

【委員の紹介】

今回、八戸委員が初めて参加されるということで、自己紹介をお願いいたします。

（八戸委員自己紹介）

ありがとうございました。

続きまして、議事に入る前に、廃棄物減量等推進審議会の公開につきましてご説明させていただきます。

市では、江別市情報公開条例第18条の規定により、市民の市政への参画を促進するとともに、公正で透明な市政を推進するために、審議会等は支障のない限り公開を原則としており、この審議会においても傍聴者を認めております。

また、会議の議事概要として、発言内容を発言者の氏名とともに市のホームページ等で公開いたしますので、ご了承いただきたいと思っております。

本日は、5名の傍聴希望者が待機しております。入室いただいて、これ以降の議事を傍聴いただくと考えておりますが、よろしいでしょうか。

（各委員了承）

それでは、傍聴者の方に入室していただきます。
(傍聴者入室)

ただいまより、平成29年度第2回江別市廃棄物減量等推進審議会を開会いたします。
開会にあたりまして、押谷会長よりご挨拶申し上げます。
(会長挨拶)

ありがとうございました。
それでは、議事に入りたいと思います。
これ以降の議事の進行につきましては、押谷会長、よろしくお願いいたします。

【議事】

○会長

それでは、以降の議事の進行につきましては私が務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

本日の議事は、「環境クリーンセンターの現状と課題について」の1件になっております。
報告を事務局からよろしくお願いいたします。

(1) 報告事項

①環境クリーンセンターの現状と課題について

○施設管理課長

施設管理課の中町です。私から、「環境クリーンセンターの現状と課題について」ご説明いたします。

資料1をご覧ください。

1の施設の現状と課題であります。施設の運営維持管理は、平成19年10月から平成34年3月末まで(株)エコクリーン江別に長期包括委託することにより毎年度の経費を平準化し、効率的な運営管理が図られ、安定した稼働が継続されております。

環境クリーンセンターは稼働から14年が経過し、平成34年11月末で、一般廃棄物処理施設の耐用年数である20年が経過することから、今後の施設の方向性の検討をする必要があります。

次に、2の施設の概要であります。環境クリーンセンターは、平成14年11月に竣工し、同年12月から供用を開始しております。

施工業者は、三井造船・三井建設・船木共同企業体となっております。

処理対象物・処理能力であります。燃やせるごみの処理方式は、ガス化熔融方式で、1日70t処理できる炉が2炉あり、1日の処理能力は140t、燃やせないごみの処理方式は、1次・2次破碎方式で、1日5時間で35tの処理能力となっております。

燃やせるごみの施設では、出力1980kWの発電機1基を備えており、ごみ処理過程で発生する廃熱を利用し発電を行い、施設の使用電力を補っております。

また、停電時などの非常時には、施設を安全に立ち下げるために出力560kWの非常用発電機1基を配備しております。

建設費は、約73億円となっております。

次に、3の今後の検討内容であります。今後の施設の方向性について、将来的に廃棄物処理に必要となるコストを環境省策定の「廃棄物処理ライフサイクルコスト算出例」に基づき、現施設を延命化した場合、延命化せずに施設を建替えた場合の経費を算出し、比較検討を行います。

なお、今後の施設の方向性を検討する中で、想定される札幌市への燃やせるごみの処理委託については、当市に近接する白石清掃工場の焼却量に当面余裕がない状況にあるため、検討から除くこととしております。

次に、4の今後のスケジュールであります。本年9月に今後の施設の方向性の比較素案を策定し、10月、11月開催予定の当審議会において、施設の方向性の比較素案、パブリックコメント案を報告した上で、ご意見をいただき、12月にパブリックコメントを実施し、平成30年2月開催予定の審議会において、パブリックコメントの結果及び対応を報告するとともに、施設の方向性を決定及び公表を考えております。

次に、参考資料をご覧ください。

道内のごみ焼却施設の検討例であります。稼働から18年が経過しております苫小牧市沼ノ端クリーンセンターは、施設の延命化、施設の建替えについて比較検討を行い、平成26年度に15年間の施設の延命化を決定し、延命化工事を実施しております。

また、北見市、札幌市の施設につきましては、建設当初から施設の稼働目標年に基づき、延命化工事を実施しております。

説明は以上であります。

○会長

ありがとうございました。

本日見学していただきました環境クリーンセンターですが、ただいまご説明のありましたように、すでに稼働から14年が経過しております。平成34年の11月で耐用年数である20年が経過することになります。本日は、平成34年12月以降の施設の方向性について、意見を出し合って参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最初に、リサイクルセンターと環境クリーンセンターを見学いただいたご感想等を、内海副会長から順番にお願いいたします。

○副会長

私は初めて環境クリーンセンターを見学しましたが、大変きれいなことに驚きました。耐用年数が20年と仰っていましたが、建て替えてしまうのはもったいないと思います。

それから、ごみが想像していたよりも沢山あったというのが率直な感想でございます。

○浅川委員

一番感じたのは、現時点ではガス化溶融方式が最も合理的な処理方式なのではないかということです。処理工程で排出されるものは、再利用が可能なスラグや、施設内で循環利用できるものが多く、この施設の造立を決定されたことが良かったと強く感じました。

私は、今年から委員を務めておりますが、非常に責任のあることをやっていたいかなければならないということも同時に感じております。

○五十嵐委員

リサイクルセンターを見学したときに、ラベルを剥がさず出されているペットボトルが多いと率直に感じました。

今のラベルは指で簡単に剥がせるようになっているので、一人一人が少し意識するだけで、状況は良くなると思います。リサイクルセンターでの手選別を少なくするために、審議会で啓発方法等について話し合っていけば、コストの削減につながると思います。

前任期中に見たときにも、ラベルが剥がされていないものが多いという印象を受けました。一人一人に啓発していかなければいけないことですので、難しいことであるとは思いますが、そこが気になったところです。

(津島委員入室)

○会長

ただいま津嶋委員がお見えになりましたが、環境クリーンセンターを見学いただいたご感想等をお聞きしておりますので、後程ご発言いただきたいと思えます。

○中井委員

この施設を造るときに、最新の技術を導入していると市民説明がありましたが、最近の他市町村の情報を見ると、ごみの焼却施設についてはより新しい技術が導入されていて、コストもその分下がっているようです。

今では、環境クリーンセンターは最先端とは言えないかもしれませんが、そうした限られた中でよくやっていると思えます。

○三輪委員

私は、ペットボトルや缶を出す際は、透明か半透明で中の見える袋を使用することをずっと守っておりましたが、リサイクルセンターを見学してみると、中の見えないものが結構あるのが残念でした。

それから、缶を出す際に、私はアルミ缶とスチール缶と一緒に袋に入れて出しており、家族にそれは良くないのではないかと言われていたのですが、磁石で選別されているということが分かって安心いたしました。

○林倉委員

施設の方向性を検討する上で、現時点で革新的なごみ処理の技術があるのかをお示しいただきたいと思えます。もしあれば、仮に新しい施設をかなりの費用をかけて建てるとしても、安心安全、効率的、リサイクルに資する、あるいは維持管理コストを抑えられるものであるとかを総合的に判断して、これは非常に良いものであるということになれば比較検討することになると思えます。

ごみ処理施設を新たに建てる場合は、この施設を建てたときよりもっと増大した費用になると思えますので、あまり革新的なものでない場合は、今のところは延命化の方が費用対効果としては優れているのではないかと思います。ただ、それを凌駕するほどの技術革新があり、動かす上で、長いスパンで見るときに費用対効果が優れているということであれば、議論をすることが必要であると思えます。

ただ、それにはイニシャルコストやランニングコストがいくらかかるという資料をいただかなければ検討できませんので、ぜひ今後検討させていただけるような資料を提出いただければと思えますのでよろしく願いいたします。

○八戸委員

先ほど見学したリサイクルセンターで、ペットボトルは中身が入っていると手間がかかると聞きましたので、町内会の夏祭りのごみを出す際には、ゆすいでから出すようにしようと思えました。

環境クリーンセンターでは、燃やせるごみを見たところすごい量だったので、ごみの量の多さにただただ驚きました。あのごみがゼロになることはあるのかとか、処理しきれない分溜まって

いるのだろうかとか考えていました。

○会長

ありがとうございました。

稼働から14年が経過しているクリーンセンターですけれども、こちらは耐用年数が20年と
いうことですので、5年後には何らかの対応策が求められることとなります。

そのことについて、話し合いを設けているのですけれども、何かご意見ご質問等ございませ
うでしょうか。

○津島委員

耐用年数の話に関しまして、実際の耐用年数がどのくらいなのかという資料が必要だと思いま
す。燃焼するところはものすごい火力だと聞いておりますので、法定耐用年数よりも、実際の耐
用年数が大事だと思っています。

費用対効果を考えると、取り繕いながら使う方法もあろうかと思えます。ただし、焼却施設の
設備等は、実際にどのくらい傷んでいるのかという調査等が必要になると思うので、その場合、
クリーンセンターの稼働を止めなければならないこともあります。その点に関して、日常的に稼
働しているものを止めても大丈夫なのかという懸念があります。

また、あれだけの施設ですので、着工から完成まで1年2年でできるものではありません。設
計等も含め、様々なことを考えると、5年以上はかかるのではないかと思います。建て替える場
合は、そこを勘案した上で進むべき方向を考えるべきだと思います。

直す場合には、現況の稼働状況をどのように維持していくのかを考えなければならないので、
これが課題になるのではないかと考えています。

○会長

皆さんからご意見をいただいているところですが、少しお話をさせていただくと、20年経過
した後、施設の方向性として考えられるのは、大きく分けて二つになります。一つ考えられるの
は建て替え、それからもう一つは、延命化をして、この環境クリーンセンターを使い続けるとい
うことです。

建て替えにあたっては、例えば、焼却施設をどのようなものにするのか、あるいはごみをゼロ
にするような何か抜本的な新しい技術があるのかも含めて考えなければいけません。仮に
新しい施設を建てるとすると、耐用年数が経過するまで5年しか残されていません。そういう中
で、建て替えをするときに、5年後に新しいものを建てることは時間的に可能なかどうか、事
務局の方で何かお考えがあればお聞きしたいです。

○施設管理課長

施設の方向性として、延命化と建て替えの二つを検討しておりますが、建て替えはかなりの時
間を要しますので、20年経った後、3年か4年程度稼働しながら並行して建て替えを行うこと
になると考えております。

これから5年しかないということを考えますと、補助金の関係や、機種を選定に関しても委員
会を立ち上げて検討していかなければならないと考えておりますので、5年間では建て替えを出
来ないという考えを持っています。

○会長

かなりの時間を要するということですが、先ほど見学していただいた様にごみが大量に
出てくるため、ごみ処理施設は必要なものです。ごみをゼロにする抜本的な技術があれば別だ
が、そういうものがなければごみの処理はしなくてはなりません。

一方で、ごみ処理施設というのは迷惑施設です。立地の問題も関わってくると思いますが、いかがでしょうか。

○中井委員

ごみ処理施設の建設費について、大体4分の3は補助金と起債になっていますが、運営の委託費については、ごみが減っているにも関わらず、平成26年から増えています。ここは重要なポイントだと思っていますが、どのような理由で増加したのかお伺いします。また、ごみが減れば委託費を減らせる可能性があるのかどうかについても伺いたいです。

それから、委託費との関連なのですが、市民に公開されている運営委託費は、清掃事業概要でも固定費と運営委託費の変動費しか示されておりません。実際には、クリーンセンターの運営の中では、焼却費は市が持っていることと思いますが、その他の人件費や光熱費などの構成割合がどうなっているのかが示されていないです。これをお示しいただかないと、議論ができないと思います。

○会長

現在、環境クリーンセンターについては、株式会社エコクリーン江別と長期包括委託契約を結び、運営委託しています。そして、中井委員にご指摘いただきましたとおり、固定費につきましては15年間の長期包括委託ですので、その間の様々な消耗品費や人件費等もその中に含まれておりますし、変動費についてはごみの量と連動していると理解しております。いくつかご質問がありましたけれども、委託についてどのようにお考えになるのか、何か事務局であればお答えいただけますでしょうか。

○施設管理課長

先ほど仰っていた、委託費が平成26年度から上がっているという件に関しまして、これは消費税が8%に上がったため、その分上がっています。

施設の運営維持管理に関しては、固定費と変動費に分かれていまして、固定費は人件費や灯油代等が含まれています。変動費は、ごみの処理量によって変わる電気使用量や薬剤費等になりますので、ごみの量が減れば変動費の委託料も減るということになります。

ごみの量が減ってきたということで、今後の施設の建て替えの規模に関しましては、基本計画の平成32年のごみの排出量から算出して施設の規模算定をただいま進めているところであります。

○会長

ただいまご説明いただきましたけれども、中井委員、今のことについて何か追加のご質問はございますか。

○中井委員

委託費の内訳が固定費と変動費しかありませんが、今後検討するときに、固定費の内容が現在どのようになっているのかということはお答えできないということですか。

○会長

これについては、市は目的会社と長期委託契約をしていますので、その中で目的会社が運用されていると理解しておりますが、事務局の方で何かあればお願いします。

○施設管理課長

会長が仰るとおりで、目的会社のエコクリーン江別に依頼しているということで、委託に対し

ては固定費と変動費がありまして、その合計が環境クリーンセンターの運営維持管理費ということになります。

以上です。

○林倉委員

私は市から委託を受けている会社に携わっているのですが、江別市は契約当初、運営会社が算出した人件費等を含めた見積の14年6カ月分を平準化して、毎年同じ金額を払っています。ですので、江別市は現状、運営会社がどのような比率で費用がかかっているのかは承知されていないと思います。

もし、現在の比率を把握したいということであれば、運営会社に毎年内訳を提出させる必要があると思います。

○中井委員

委託契約をする時に、当然市も内容は把握しているのではないのですか。そうでなければ、業者の言いなりで契約し、それが20年も続いているのではないのでしょうか。

○林倉委員

当初の設計を公開するのは、私は承知しておりませんが、江別市は現状の固定費が契約したときの比率と同じような内容になっているのかは、恐らく把握していないかと思います。それを知ろうということであれば、運営会社に資料を提出させるしかないと思います。ですから、契約当初、どのように固定費が算出されたのか、あるいはどこまで公開されるかということは江別市の判断ではないかと思います。

○会長

それについては先ほども申し上げましたとおり、目的会社であるエコクリーン江別が委託を受けているわけですから、固定費については当初に検討されて、修理修繕や保守管理、それから経年劣化で必要になるものについては、エコクリーン江別が与えられた固定費の中でやっておられます。当初の契約の段階では、そこを精査されて、その時点において正しいものとして算定されていると理解してよろしいのではないかと思います。

長期包括委託ですので、毎年査定して精算ということではなく、固定費の中でしっかりと行われているということです。

中井委員、何かそこに特段の疑問がございますか。

○中井委員

20年前に長期包括契約を結んだ時に、算定根拠があったはずですが、それはもう無いということですか。あるのであれば、示していただいて、延命等について議論する必要があると思うのですが。

○会長

それは本審議会の内容に該当する問題ではございません。本審議会は包括委託を審議している場ではありませんので、この場でお答えする必要はないと思います。

市の方で、長期包括契約を結んで、エコクリーン江別がその委託の中でやっておられるということでございますので、そこについては審議会で議論することではございません。廃棄物の減量あるいは適正な処理・処分について、それに伴う技術的な課題、あるいは政策的な課題について私たちは議論していると思いますので、本審議会ではそのことについてお答えを求めるといったことではないと思います。

よろしいでしょうか。

○林倉委員

弁解がましい話になりますが、中井委員が仰ったように、20年間全く変わらず、業者に同額の費用を支払い続けているのはどうなのかというご意見もあろうかと思えます。ただ、それは逆に言えば、20年間様々なリスク、変動様相を閉じ込めて、市は安定的な費用でごみ処理を行えたというメリットもあります。

私も委託を受けている業者におりますが、ものすごい勢いで灯油価格が上がった時期もありますし、原発の関係で電力が上がったこともあります。様々なリスクを踏まえて企業は運営しています。

また、固定費であるがゆえに、コストの削減を行えば、少し余裕が生まれるのではないかと企業努力をいたします。これが全て従量制であれば、社会情勢がそのまま反映され、コストが上がるということになります。

ですから、必ずしもどちらが良い悪いということはないと思えます。これからどのような委託をするのか、建て替えと延命化のどちらが良いのか、それを議論する場がありますので、そのために当初はどうだったのか、現状はどうなのかということになれば、比較検討の材料として必要になってくるかと思えます。

決して、20年間同じだから業者が良いということでは無いと申し上げておきます。

○会長

ただいま林倉委員からご説明がありました。当初はしっかりと算出していたことと思えますし、この20年間の変動について、例えば数年前に石油価格が非常に上がって、エコクリーン江別も大変だった時期がおありになると聞いております。そうした中で、しっかりとした事業運営を継続してできることが、ごみの処理の安定化に繋がっているということですので、ご理解いただきたいと思えます。

それから、先ほど私から申し上げましたように、長期包括委託契約の内容について、本審議会では議論しているわけではございませんので、このことについては以上で議論は差し控えさせていただきたいと思えます。

それでは、他の件について何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

先ほど申し上げましたように、廃棄物をどのように減らしていくのか、この処理施設を今後も使うのか、新しい処理施設が良いのかということについて、技術的な問題や経済性の問題を絡めて議論しています。それから今の分別方法が良いのか悪いのか、分別の徹底ですとか、使用するごみ袋の徹底についても議論しています。

リサイクルセンターでのご説明では、江別市民は分別に協力的であってなかなか良いことができていますように思いますが、今後どのようなかたちが良いのかについてご意見を伺いたいと思えます。いかがでしょうか。

○八戸委員

私はごみ袋が有料になったときより少し前に江別市に引っ越して来たのですが、その前は札幌におりましたので、江別市の分別が燃やせるものと燃やせないものの2種類であることに驚きました。リサイクルも徹底すれば大変なのですが、2種類しかないことで、全部燃やしてしまえばいいのではないかと私自身のリサイクルの意識が下がってしまいました。

その件は置いておかせていただきまして、主人の母はずっと江別に住んでいて、リサイクルに対する意識が、有料化以前と変わっていません。高齢になると、新しい情報が入ってこないようで、どのようにおばあちゃんたちに分別方法をうまく伝えたら良いのか悩んでいます。スプレー缶も穴を空けようとしますし、ペットボトルは相変わらず燃やせないごみに入れるので、その度

に説明するのですが、なかなかおじいちゃんおばあちゃん世代には分別方法が伝わらないということを実感しています。

あとは、最近古い布もリサイクルできると聞くのですが、それも馴染みがないので、新しいリサイクル方法をどんどん活用できればごみが減らせるのに、なかなか浸透しないのが課題であると思っています。

○会長

市民の方々にご協力、ご理解をいただくため、本審議会でも議論がされております。ごみのことや分別方法について知っていただくための仕組みづくりも進めていますが、分別等が変わるとなかなか浸透せず、難しい面もあります。

その中で、先ほどエコクリーン江別の社員の方からご説明がありましたが、小学校4年生の児童を対象にクリーンセンターを見学したり、ごみのことについて勉強する機会を作られているようです。そういうことの積み重ねだと思しますので、そのところは今後も本審議会で議論しなければいけないと思います。

それで、例えば仮に新しい処理施設を造るときに、あるいはこの施設を使い続ける必要がありますが、それにあたって政策的なものも必要になると思うのですが、それに関して何かご意見ございますでしょうか。

○内海委員

私たちが検討する場合は、やはり林倉委員が仰ったように、何か比較検討するような材料が無ければ検討できません。機械を延命化するか、新しく機械を取り替えるかという話になりますと、専門的な知識が必要になります。

今の機械も、20年前は最新の機械であるということで導入されたと思いますが、あと6年後にこれよりも優れた機械ができるのであれば、それを導入するかどうかという比較検討はできるかと思えます。ですが、現状のままで延命するか、新しくするかというのは難しい問題だと思えますので、事務局の方で新しい機械の資料等を提示していただければ、それを参考に検討できるかと思えます。

○会長

比較検討を今後されていく中で、9月には施設の方向性を市で策定されて、本審議会で施設の方向性の比較について資料をご提示いただくこととなります。ただいまご意見がありましたことも含めて、できるだけ細かく私たちに示していただいて、それをもとに検討をしていかなければいけないと思います。

先ほど申し上げましたように、本施設を見学いただいて、例えばこの部屋を見ても本当に14年経過している建物なのかと個人的には思うのですが、どうでしょうか。

それから、ごみのガス化施設ですとかクレーン等を見てきましたけれども、まだまだ使えるのか、もう限界なのか、率直なご感想はいかがでしょうか。

○中井委員

感想というよりも意見なのですが、北広島市や恵庭市は生ごみの資源化を行っていますので、そのような施設とも比較して議論をする必要があると思います。

もう一つ、札幌の白石の清掃工場について、私は実際に中に入ってみました。ここと比べて画期的な新しいものはなく、受け入れできる余裕が無いというものそのとおりで、白石への搬入を検討から除くという市の意思表示については良いと思います。

○会長

ただいまご意見のありましたように、北広島市では焼却を止め、生ごみの有効利用を進めていますが、そのような事例も含めて検討しなければなりません。そこにおいては、先ほど林倉委員からもご意見がありましたように、費用対効果という面も出てくるのだと思います。生ごみの資源化は、市民の方に分別をしっかりとしていただけるかということもありますので、ぜひ事務局でそこも含めて比較できるような資料をご提供いただいて、次回の審議会に臨んでいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

他にございますか。

○八戸委員

次の審議会の参考にしたいのですが、江別市と同じような処理施設を持っている全国の他の自治体で、延命か建て替えを考えているところや、もうすでに決まったというところが他にありましたら参考にしたいと思うのですが。

○会長

焼却方法について、参考資料中の4番を見ていただきますと、苫小牧市はストーカ式という処理方式でして、北見市は流動床方式、札幌市はストーカ方式です。それから、資料1を見ていただきますと、環境クリーンセンターで行われているのはガス化溶融方式と言いまして、焼却1つ捉えてみても色々な方式があります。その中で、ストーカ方式というのが一般的な焼却方法であったと理解しています。北見市の流動床方式ですとか、あるいは環境クリーンセンターのガス化溶融方式というのは、当時、ダイオキシン対策のため高温で焼却できるとか、大型で効率的な処理をできるものとして出てきたということであると思えます。

焼却方式について、何か事務局で課題等あればお願いいたします。

○中町課長

江別市と同型のメーカー、三井造船製の施設は、全国に江別市を含めて7施設ございます。その中の1号機が福岡県八女市の西部クリーンセンターであります。これに関しましては、平成12年4月から稼働してまして、稼働から17年が経過しています。この施設は延命化することによって、工事を行っている状況になっています。

他の1施設は、広域処理を考えて大きな施設に建て替えるということになっています。

検討中の施設が3施設で、残りの1施設は静岡県の浜松市にございますけれども、平成21年度に稼働しましたので、まだ稼働から8年しか経っていないことから今後検討される状況となっています。

以上です。

○会長

そちらも、分かる範囲で次回の審議会には資料をご用意いただくということをお願いしたいと思います。

先ほど、五十嵐委員からペットボトルのラベルの話がありましたが、かつてはくっついていてなかなか剥がれませんでした。今は業界で剥がれやすいようにしています。ご存知のように、ペットボトルの本体とラベルのプラスチックは種類が違いますので、リサイクルするにしても分別しなくてははいけません。そのところはどうでしょうか。五十嵐委員からは、少し分別できていないのではないかとご意見がございましたが、リサイクルセンターでのご説明によれば、江別市では比較的きれいに分けられているということでした。

何か感想等をお聞かせいただければと思います。

○内海委員

リサイクルセンターを見学しながら五十嵐委員と話をしていたのですが、各家庭で少し気を使ってラベルを剥がせば、ペットボトルの手選別が相当数減るのではないかと思います。これは目から鱗で、私たちの自治会でも何かしなければならぬと感じました。本当に申し訳ないという気持ちになりましたので、自治会では力を入れて啓発を進めていこうと思いました。

○会長

私事ですが、私は分別のできていない国の分別収集をするのが本業でございますので、そのような状況から見ると、江別市は非常に上手くいっているという先入観がございますので、視点を変えてまだまだだということを改めて私も考えなければいけないと思います。

他にございますか。

○浅川委員

関連して、リサイクルセンターの室長が、文京台地区のごみが入ってくる日は手作業が増えると仰っていましたが、文京台には私の勤務先の大学がありますので、やはり学生に対する啓発も必要になってくるのではないかと考えました。

市の方と協力して、何かそのような機会を増やしていきたいと思いました。

○会長

これも、自戒を込めて申し上げます。私の勤める大学も、沢山の学生が住んでいる文京台地区にありまして、この審議会でも時々話題になりますが、若者が住んでいる町は分別も上手くいっていません。そのため、浅川委員のおられる大学も含め、新入生に対して分別等のガイダンスを行っているところではありますけれども、今後も協力が必要であると思います。

他にございますでしょうか。

○五十嵐委員

耐用年数は20年と書いておりますが、これは焼却施設等の高度に負荷のかかる部分の話ではないでしょうか。他の同規模のコンクリートで建っている建物を見てみても、20年という耐用年数ではないと思います。

ただ、この建物の特性上、見学をする場所なども併せて複合的に造っていますので、処理する部分の耐用年数が20年でしたら、他の部分も一緒に建て替えるべきではないでしょうか。例えば、会議室や事務室、コンピュータ室ですとかを残すというわけにはいきません。そうなりますと、可能かどうかは別にして、新しく建て替えることを前提に考えたとき、そのような部分を別に建てておけば、建築費は全体を建て替えるよりも安価に済むのではないのでしょうか。ただ、このような施設の場合、クレーン等を動かす中央制御室が離れていたら到底仕事になりません。会議室や事務室も、一緒にある方が効率が良いとは思いますが、建築費、耐用年数のことだけを考えれば、そのような建て替え方も考えられると思います。

どうすればそれができるのかは議論しなければなりません、そのような建て替え方も1つの方法であると思います。別個に建てておけば、処理施設だけを建て替えて、事務棟は建て替えないというようなことも考えられますので、今後色々と検討する材料をお示しいただけることですので、またその時に検討してみたいと思います。

○会長

そのような抜本的なアイデアも、場合によっては必要になるかもしれません。

三輪委員、ご見学されて、率直なご意見でよろしいのですが、14年前、この施設を造るときは73億円かかっているのですが、今はもっと高額な費用がかかると思います。そのような中で、施設についてのご印象はいかがでしょう。

○三輪委員

私は今回三度目の見学になります、三回とも全く変わらない同じものを見に来たように感じていますので、20年経過したら何らかの対応をしなければならないということの実感が湧きません。

もし、建て替えることになれば、主婦の感覚ではもったいないと思います。

○会長

もったいないというキーワードが出ましたが、もったいないということを考えれば、まだまだ使えるものは使っていかなければならないと思います。ただ、やはり使い続けるにあたっては、熱により高い負荷がかかる部分もありますし、他の機械も劣化していきたくらうということを考えますと、現在のコストで良いのかということも議論せざるを得ないのかもしれないかもしれません。

また、抜本的なことも含めて、様々なご意見を率直にいただければと思っておりますし、次回はそのようなことが資料に出てくるのだと思います。

津嶋委員、一度しかご発言されていませんので、皆様のご意見を含んでいただいて、見学はできなかったのですがいかがでしょうか。何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○津嶋委員

特段ありませんが、まずは建て替えにするなり、延命にするなり、費用対効果についてまとめた資料をお示しいただいた方が噛み合う議論になると思いますので、事務局でご用意をお願いしたいと思います。

○会長

事務局で、できるだけ多くの情報をまとめ、かつ分かりやすい資料をご提供いただきまして、私たちが意見を述べられるようなかたちにしていただければと思います。

それでは、今日は長時間にわたって行っておりますので、最後に何かご質問ご意見等ございましたらよろしく願います。

○中井委員

検討をする中で、課題についての資料をいただいておりますが、他の市町村の多くが延命化に対応している例がありますので、延命化するのが良いかと思えます。

そもそも、耐用年数が20年というのは短すぎると環境省でも議論されています。ですから、やはり長く使えるものは使うべきではないでしょうか。原子力発電所ですら40年使っているわけですから、この点を踏まえて検討していただきたいと思えます。

○会長

皆さんからご意見をいただいているところですが、使えるものは使い続けるということについては大方皆さん合意であると思えます。

しかし、今日は話題に挙がっておりませんが、残念なことにこれからも人口減少が予想される中で、ライフスタイルも変わってくると思えますので、それに応じた処理施設の在り方等も考えていかなければなりません。

その点は、次回の審議会でも多くの資料を提出していただいて、ご意見をいただければと思えます。

他に何かございますか。

○林倉委員

開催日程についてですが、仕事の都合がありますので、できれば月末は外していただくなど、開催日程は多少配慮いただければと思いますので、今後はよろしくお願いいたします。

○会長

それでは、他にご意見が無ければ、次回のおおむねの予定をお示しいただけますでしょうか。

○廃棄物対策課長

次回の審議会ですが、10月の第2週目あたりで調整させていただきたいと考えております。具体的な日程が決まりましたら、あらためて皆さんにお知らせしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○会長

本日は月末でございまして、事業を行っている方にとってはなかなか出席できなかったかと思っておりますので、なるべく多くの方々が出席できるよう日程を調整させていただきたいと思っております。

最後に、これだけは言っておかなければ次の審議会に繋がらないというようなことがございましたら、ご意見ご質問いただきたいと思いますけれども、よろしいですか。

それでは、本日の報告事項、それから貴重なご意見ありがとうございました。

【閉会】

○廃棄物対策課長

押谷会長、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第2回江別市廃棄物減量等推進審議会の本日の全日程を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。